

■健康科学部リハビリテーション学科カリキュラムマップ

リハビリテーション学科ディプロマポリシー(学位授与方針)

社会人としての一般教養、人間性や倫理性を身につけ、また保健・医療・福祉におけるヘルスケアを担う専門職としての知識と技術を身につけ、卒業後に専門職として活躍できる実践力と自己研鑽するための研究能力を磨き、広く社会に貢献できる人。

(1)人間性

1. 対象者ならびにその関係者に対し、個人の尊厳と基本的人権の尊重に基づき配慮し活動できる人間性と倫理感をもつことができる

(2)専門性

2. 基礎的知識:基本的な医学的知識を用い、人体の構造・機能について説明できる
3. 専門的知識:一般臨床医学の知識を用いて、心身機能に関わる病因・疾病・障害について説明ができる
4. 応用的知識:基礎的・専門的知識を用いて、対象者の問題点、その原因を統合・解釈し必要な治療プログラムを立案する
5. 実践能力:それぞれの臨床実習などで、評価、治療プログラムの立案、治療プログラムの実施を指導者のもと実践することができる

(3)社会性

6. 専門職として求められる役割とその責任を自覚することができる

(4)協調性

7. コミュニケーション力:様々な問題を抱える対象者ならび関係者の話を傾聴する。また、チーム医療をなす構成員の専門性を理解し、その意見を尊重しコミュニケーションを取ることができる
8. チーム医療:チーム医療の一員であり、他の専門職者と連携・協働しつつ、対象者の持つ医学的、社会的問題に対する情報を共有し、目標を達成するため自分の役割と責任を担い行動できる

(5)創造性

9. 論理的思考力:心身機能に関する基礎・専門知識とともに、社会的側面をも捉え包括的に対象者の問題を分析することができる
10. 問題解決能力:対象者の問題を分析、解釈をすすめる、医学的・社会的アプローチを立案し、実践することができる

(6)主体性

11. 自らの知識・技術・態度を評価し、絶えず自己研鑽をすることができる

科目カテゴリ	授業科目	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係(◎特に重要、○重要、△望ましい)											
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	人体の構成要素としての細胞・組織学を理解する。さらに、個体の運動器系を構成する骨格系(骨格・靭帯)および筋系を中心に学び、人体の主要な骨格筋、骨や関節の特徴や構造を知り、作用を理解する。	1. 体の構成要素である細胞・組織学について説明できる。 2. 個体の運動器系を構成する骨格・靭帯・筋についての説明できる。	○	◎	○	○		○				△		○
専門基礎科目	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰで学んだ筋骨格系を踏まえ、動きを指令する神経系や、動きを感知する感覚器系について理解する。また、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系、循環器系および嚥下や排泄を含めた消化器系などについても理解を深めていく。	1. 内臓、脈管系、神経系、および感覚器系について、構造、作用、分布等を理解する。	○	◎	○	○		○					△	○
専門基礎科目	解剖学実習	リハビリテーションに必要な骨・関節・筋肉に関して、骨格標本と人体模型を使い、形態と構造および機能を確認する。	1) 骨格および筋肉の部位について具体的な名称と身体における部位を説明できる。 2) 主要な関節(肩・肘・手・股・膝・足)の関節構成体を確認し、各関節の解剖学的な特徴がいえる。 3) 主要な関節における筋の走行を確認し、筋の起始・停止・神経支配・機能を暗唱できる。 4) 体表解剖にて臨床に必要な身体指標の触診と、その名称を覚え説明できる。	◎	◎				○						◎
専門基礎科目	人体生理学	細胞レベルから器官、さらにそれらが互いに協働し合いより高度なシステムをなし生命は維持されており、これらを全般的にまなび、生命維持活動における個々の役割を理解し、病態学・障害学との関連を理解する。	神経系の構造と機能について説明ができる。 運動器の構造と機能について説明ができる。 呼吸・循環の構造と機能が説明できる。 消化・吸収・排泄に関する器官の構造と機能が説明できる。				◎	○							○
専門基礎科目	人体生理学実習	生体の生理機能に関し、実習を通して学ぶ。	運動時の生体反応を説明する事ができる。 神経系の解剖、生理について説明でき、神経伝達速度の測定理論が説明できる。 心電計を操作し、安静時の心電図を測定することができる。 スパイロを操作し、肺機能検査を実施することができる	○	◎	○									○
専門基礎科目	運動学Ⅰ	解剖学や人体生理学で学んだ知識を基に、身体における様々な運動や動作に関する基礎を学んでいく。	1. 身体運動のメカニズムを力学の観点より説明できる。 2. 様々な姿勢、運動、動作を基本用語を用いて表現できる。			◎	○								○
専門基礎科目	運動学Ⅱ	解剖学・生理学・運動学Ⅰにて学んだ身体の基本構造と機能の知識を踏まえ、各機能と身体運動の結びつきについて、自ら考え、説明できることを目的とする。	1. 1年次に学んだ解剖や運動学を基礎として、身体の運動に関する事象を多角的な視野で説明出来る。 2. 身体運動を担う筋骨格系の機能について学び、その機能と動作との結びつきについて考え解剖学的・運動学的な用語を用いて説明できる。			◎	○		○					○	○
専門基礎科目	人間発達学	人間を理解する基礎として、胎児期から老年期に至るまでの、身体的・精神的・社会的な発達を学び、それぞれのライフステージにおける特徴を体系的に理解します。	1. 発達の理論の諸説と各種発達検査を説明できる。2. 粗大運動と手指の微細運動の発達について説明できる。3. 認知・知的・心理の面の発達について説明できる。	◎	○								△	△	○

専門基礎科目	人間発達学演習	人間の生涯に和る発達過程やメカニズムについて学ぶ。各ライフステージとの課題を整理し、意味を理解する。発達検査、幼児期の遊び提供など実践演習を通して知識技術を習得する。	1.発達検査について目的および技術の理解と適切な解釈が出来る。 2.集団活動技術を学ぶ。 3.近代社会における権利擁護について理解する。	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○	○
専門基礎科目	臨床運動学	運動学やバイオメカニクスは人間の動作や運動を注意深く分析するうえで役立つ。解剖学・生理学・運動学で学んだ内容を踏まえながら、動作や運動との関連性について考え、より臨床的な思考力を養う。	1.運動学の視点から、臨床でよく目にする様々な疾患の事象、要因を説明できる。 2.疾患に合わせた運動や現象を説明でき、訓練プラン作成における、根拠のある事象の機序を説明出来る。	△	○	◎	○	△	△	○	○	○	○	○
専門基礎科目	疾病と障害総論Ⅰ	病因としての生物学的、物理的、化学的な外因と内因としての代謝異常、遺伝子異常、加齢、性別などによる病理過程を学び、これらがもたらす炎症、腫瘍、変性などの病態と障害の関連を理解する。	1.中枢神経疾患、運動器疾患、呼吸循環器疾患などの病態と心身機能について説明ができる。 2.療法師として専門的な病理志向的アプローチ法が立案できる。		◎	○	○			△		△	△	
専門基礎科目	疾病と障害総論Ⅱ	医学的リハビリテーションの実践においては心身の機能的状態の評価が重要であり、療法師は臨床医学の中核である内科学の知識が求められる。高齢化に伴い多臓器疾患の合併が増加し、全身的な心身機能として障害の個別性を理解する。	1.呼吸循環器系疾患、代謝疾患や内分泌疾患などについて疾患の症候、診断、治療および予後が説明できる。2.全身状態の評価に基づいた問題志向型の個別性のあるリハビリテーション計画が策定できる。		○	◎	○			○		△	○	
専門基礎科目	神経系障害とリハビリテーション	各種神経疾患の病態、症候と診断を学び、生活機能に影響する高次脳障害、運動感覚障害などを評価し、対応する治療計画や診療実践の理解を深める	1.神経系障害の評価とリハビリテーションについて理解し、説明できる	○	◎	◎	○						○	○
専門基礎科目	骨・関節障害とリハビリテーション	運動器の疾病や外傷による機能障害の病態、診断、治療過程を理解し、リハビリテーションにおける機能・構造、活動と参加の評価と対応を修得する。	1.運動器障害について病因、病態と症状について説明し機能評価ができる。2.機能・構造、活動と参加に対する専門的なアプローチ法を立案できる。		◎	◎	◎			△			○	○
専門基礎科目	内部障害とリハビリテーション	呼吸・循環・代謝の反応を運動生理学の観点から理解し、運動生理学的知識を基に、内部障害疾患の病態、障害、治療について学び、内部障害のリハビリテーションについて理解を深める。	呼吸、循環、腎臓、小腸、免疫、代謝系の生理学について説明する事ができる。病態理解のため必要は評価項目をあげる事ができる。一般的な運動療法の内容やADL指導上の留意点を説明することができる。		○	◎	○							○
専門基礎科目	発達障害とリハビリテーション	胎児期から人間は発達によって変化し続ける。小児医療の視点において、理学療法士や作業療法士が知っておくべき疾患の理解や障害の理解およびリハビリテーションについて理解する。障害特性により起こりうる様々な生活上の課題を環境という側面から地域生活者としての支援の実践について紹介する。	様々な小児疾患の病態や病状について理解することができる。胎児期からの様々な神経系および先天的疾患、内部障害関連の疾患に加え、児童における精神疾患についても理解ができる。また、障害児に対する療育や教育という視点からの制度や支援の在り方についても理解することができる。	○	◎	◎	◎		○	○				○
専門基礎科目	老年期障害とリハビリテーション	理学療法士や作業療法士にとって、高齢者を対象とすることの多いリハビリテーション医療の老化および老年病を理解することは重要である。障害の原因およびリハビリテーションを進める上での配慮事項などを理解する。	1.老化に伴う身体・精神機能の変化および高齢者に多い各種疾患の概略を説明することができる。 2.老化を考慮した診療計画を策定することができる。	○	◎	◎	○	△	○			△	△	○
専門基礎科目	精神障害とリハビリテーション	精神障害の国際分類、代表的な精神障害の原因と症状、経過、予後などについて学び、身体療法とリわけ薬物療法、精神療法、社会療法などの各種治療法の概略を学習する。さらに精神科医療における法制度についても理解を深める。	1.精神障害の種類、症状、経過、予後および治療法について患者に説明できる。		○	◎	○						○	○
専門基礎科目	臨床心理学	リハビリテーション専門職として必要な知識として心理学の基本的事項を確認しながら、臨床心理学の概論として、歴史、精神医学との関係、その他治療過程で発生する可能性のある諸問題、心理的評価法や心理療法の諸技法について紹介する	1.心理学の基礎知識を理解し説明出来る。 2.臨床心理の基礎知識、アセスメント方法、介入方法について説明出来る		◎	○	△			◎	○	◎		
専門基礎科目	リハビリテーションの理念と概要	リハビリテーションとは何か、その理念と心理社会的背景、医学モデル、国際障害分類、国際生活機能分類(ICF)、社会保障を理解する。	1.リハビリテーションの理念に基づいた保健、医療、福祉の在り方や思考の展開ができる。2.いわゆる「リハビリテーション・マインド」を修得し、今後履修する講義や実習における基調にすることができる。		◎				◎	○	○	△		△
専門基礎科目	リハビリテーション実践	臨床実習を前に、諸課題に対して障害の評価法、具体的なゴールの設定法、治療アプローチ、帰結の信頼性や妥当性の検討法を修得する。	1. QOLを目標とした包括的な視点から障害を評価し治療計画を立案することができる。2. チーム医療においてICFに基づいた病理志向的アプローチおよび機能志向的アプローチが実践できる。		◎	◎	○			△	△	○	○	○
専門基礎科目	公衆衛生学	公衆衛生学で得られる日本の医療状況に関する資料を読み、健康に関連する生活習慣、生活環境の安全性、食品保健と栄養、感染症対策、母子・精神障害者・難病の患者に対するヘルプサービス、学校保健、産業保健などの制度内容について体得する。	1.公衆衛生の用語を理解し、説明できる。 2.健康にかかわる多種多様な事象を公衆衛生の視点から読み解き、それに対する自らの考えを述べる事ができる。	◎		○		◎	○	△	△			○

専門基礎科目	保健福祉論	急速に進行した高齢社会における健康課題を把握し、これに的確に対応するための政策の展開について理解を深める。	理学療法士または作業療法士として必要な保健医療福祉の基本的な制度枠組みについて自分の言葉で説明できる。また、地方公共団体の保健医療福祉計画の概要についても自分の言葉で説明できる。	○									◎	◎	◎	◎	○	○
専門基礎科目L群	リエゾンゼミⅠ	在学期間中に求められる基礎的な態度・姿勢・能力を養うため、学生生活を円滑に送る諸力のみならず、社会人となる上で求められる諸力の基盤を構築する。	1) 自己の課題を発見し、主体的に必要な情報を収集し、多様な問題解決にむけ行動できる 2) リハビリテーションの視点から地域の課題に関心をむけ、課題解決に向けた取り組みができる	◎									◎	◎				◎
専門基礎科目L群	リエゾンゼミⅡ	リハビリテーションにおける理学療法士の役割とその専門性について理解を深めていく。	1. 見学実習の課題成果をまとめ、発表することができる。 2. 症例報告・レポートの基本的な書き方ができる。	◎									◎	◎	◎	○	○	○
専門基礎科目L群	卒業研究	担当教員の指導の下で学生が興味をもった理学療法に関する研究テーマについて、研究活動を進める。その中で研究の信頼性、妥当性、エビデンスを確かめ、結果をまとめて口述発表・論文作成までの研究過程を経験する。	1. 理学療法の卒業研究の授業をもとに実証的研究(実験・調査・文献・事例研究)を経験し、研究成果の口述発表並びに論文作成を行なうことができる。	○	○	○												◎
専門基幹科目B群	理学療法概論	自らが選択した専門職について理解を深めるため、理学療法の歴史的な流れ、実際の理学療法の流れ、理学療法技術、理学療法の領域や職業倫理など、理学療法に関する概要を理解する。	理学療法の流れ、その目的・意義を解説することができる。 理学療法に用いられる様々な技術について、一般的な目的や禁忌が説明できる。 理学療法士としての職業倫理について説明することができる。 EBM[科学的根拠に基づく医療(理学療法)]について、その手段および方法について説明することができる。	○									◎	△				○
専門基幹科目B群	基礎理学療法	理学療法士を目指す学生としての動機づけを様々な視点より体験する。コミュニケーションスキル、プレゼンテーション能力、PCの基本操作および情報検索、文書やレポートの書き方などの基礎を、後期実施の見学実習に向け習得する。	1. 理学療法(士)の役割を理解し、さらなる興味や向学の志を高める。 2. 大学生として、理学療法士として必要な基本的なスキルや心構えを身につける。	◎	○								◎	△	△			○
専門基幹科目B群	理学療法研究法	基本的な研究方法や分析の手法、抄録の書き方や発表の仕方を学び、将来的な学会発表等が行える能力を養う。そして、理学療法学分野とそれに関連する学際的分野における研究の意義についての理解を深める	研究計画立案の流れを説明する事ができる。 必要な文献収集を行うことができる。 研究計画を立案することができる。 必要な統計手法を用いDataの分析ができる。	○	○	○												◎
専門基幹科目B群	理学療法評価Ⅰ	病態とともに検査測定の結果の臨床的意義が理解でき疾病と障害の理解を深め、理学療法を進める思考過程での理学療法評価の位置づけを理解し、評価における目的、方法、意義、そして基本的な流れを学習する。	各種検査・測定目的、意義を説明する事ができる。 医療面接、観察、関節可動域測定、徒手筋力測定、筋緊張、腱反射の目的を説明する事ができる。 関節可動域測定、徒手筋力測定、筋緊張、腱反射の測定(実技)が適切にできる。	○	◎	◎	○	○										○
専門基幹科目B群	理学療法評価Ⅱ	主に神経系疾患の評価を行う際に必要となる代表的な検査・測定内容、情報収集の意味と具体的な方法論を学ぶ。同時に、それらの検査・測定の技術を正確かつ手早く実施できるよう実技練習を行っていく。	1. 様々な検査・測定技術を学び、それらを適切に遂行できる。 2. 収集した様々な情報やデータを分析し、個々の状態像を統合・解釈できる。	◎	◎	○	○											○
専門基幹科目B群	運動動作分析学	運動力学を常に想起しながら、主に基本動作を中心とした分析の手順を学ぶ。実習やビデオ観察により運動の具体的な記載法を練習し、異常動作の特徴や原因を理解する。	1. 運動や動作の観察と分析が適切にできる。 2. 専門用語を用いて、適切に運動や動作を表現できる。 3. 異常動作の特徴や原因を述べる事ができる。		◎	○	○	△										○
専門基幹科目B群	基礎運動療法学	解剖、生理学、運動学、病理学をもとに運動療法の理論を学び、関節可動域運動、筋増強運動、疼痛に関する運動療法の基本的技術を習得することを目的とする。あわせて、それらの運動療法を用いる疾患や障害像について理解を深め、運動療法の適応について理解する。	運動器・神経系の構造と機能解剖について説明する事ができる。 基本的な関節可動域運動を実施することができる。 基本的な筋力増強運動を実施することができる。 基本的な協調性訓練を実施することができる。 疼痛緩和のメカニズムについて	○	○	◎	△							△				○
専門基幹科目B群	運動器系理学療法Ⅰ	運動器系疾患に対する知識の再確認と理学療法の基本的な治療方法などを講義や実技で理解を深めていく。	1. 疾患の特徴を理解したうえで運動器の理学療法について説明、実施できる。 2. 疾患に求められる運動療法について、説明、実施できる	○	◎	◎							○					○

専門基幹科目B群	運動器系理学療法Ⅱ	代表的な運動器疾患のみならず、スポーツ外傷・傷害を中心とした理学療法について概観する。症例をシミュレーションし、理学療法評価の妥当性を吟味して治療プログラムを立案し、それらを実施させて臨床実習への礎とする。	1. 運動器疾患を解剖学・運動学の専門用語を用いて原因、病態を説明できる。 2. 運動器疾患に対する評価法を実際に行うことができる。 3. 評価で得られた情報をもとに訓練プログラムを立案することができる。	△	○	◎	◎	△	○	○	△	◎	◎	○		
専門基礎科目B群	発達系理学療法Ⅰ	ヒトの正常な発達を理解するために、小児期の疾病について理解する。疾病を持つ子の特徴的な発達を知り、それに対してどのような理学療法がなされるのかを理解する。そして原始反射等、正常発達の理解を深める。	1. 小児に関する代表的な疾患の発症機序を理解しその理学療法評価を説明できる。2. 小児に関する理学療法治療諸説の概念を理解できる。			◎	○	○				△		○		
専門基礎科目B群	発達系理学療法Ⅱ	脳性麻痺に対する理学療法評価と治療の基本的概念を学び、評価から治療までの一連の過程を理解します。	1. 脳性麻痺の障害像の変化、評価、治療につながる情報を集め自らの考えを発表することができる。2. 脳性麻痺児の基礎的なケアの仕方を身につける。				◎	◎	△			○	○	○		
専門基幹科目B群	神経系理学療法Ⅰ	中枢神経疾患、特に脳血管疾患の病態障害像を詳しく解説するとともに、理学療法評価の一連の流れを理解する	1)脳血管疾患の多彩な障害像を詳しく理解するとともに、代表的な障害・症状を列挙できる。 2)代表的な障害・症状と病巣(脳の機能局在、脳の血管)の関連を理解する。 3)脳血管疾患における理学療法評価の一連の流れを理解し、評価計画を立案できる。	○	○	◎	◎						◎	△	○	
専門基幹科目B群	神経系理学療法Ⅱ	中枢神経系の機能や脳血管疾患の病態に関する知識を整理し、脳血管疾患の病期に応じた理学療法評価や療法について、基本的考え方や実技について学習する。	神経系の解剖や生理学の知識をもとに脳血管疾患の病態を理解し、病期に応じた基本的な理学療法(評価と治療)の選択ができる。			◎	◎	◎	○					○	○	
専門基幹科目B群	神経系理学療法Ⅲ	神経筋疾患の病態の知識を整理し、各病期ならびに病態に応じた理学療法評価や療法上の配慮点などを中心に学習する。また、必要な基本的徒手操作の実技を習得する。	神経筋疾患の基本的理学療法(評価と運動療法)を選択でき、脳血管疾患の理学療法を行う上で必要な基本的徒手操作法を実施できる。			◎	◎	◎	○					○	○	
専門基幹科目B群	地域理学療法Ⅰ	地域で暮らす対象者が主体的に生活できるように支援するために理学療法士として必要な知識・技術の習得する。介護保険分野について、制度および施設・在宅(通所・訪問)におけるリハビリテーションの内容を中心学習する。	1)介護保険制度の概要と、サービスを利用するまでの手続きが説明できる。2)介護保険で利用できるサービスについて、在宅(訪問系、通所系)・施設入所毎に、それぞれのサービス内容を説明できる。			◎		○	○				○		○	
専門基幹科目B群	地域理学療法Ⅱ	地域理学療法で学ぶ介護保険分野下におけるリハビリテーションについての復習および事例を通して、更に施設・在宅通所・訪問での理学療法を深く学んでいく。	1. 訪問リハビリテーションの現状と課題について説明できる 2. 理学療法士が知っておくべき在宅医療知識が理解できる			◎		◎						○	○	○
専門基幹科目B群	内部障害系理学療法Ⅰ	呼吸・循環・代謝の機能的役割を確認し、呼吸器疾患、循環器系疾患と代謝疾患の病態、障害について理解する。	呼吸器の機能解剖と生理について説明できる。 循環器の機能解剖と生理について説明できる。 エネルギー代謝について説明できる。				○	◎	○					△	△	○
専門基幹科目B群	内部障害系理学療法Ⅱ	内部障害系の運動療法を進める上で、診断学、治療・管理について学び、各疾患の病態の程度と可能な運動負荷やADL訓練について学び、安全性の高い運動処方の方を習得する。	内部障害の病態を理解した上で、安全で効果的な理学療法プログラムの作成ならびに実施の適切なリスク管理ができる					◎	◎	○						○
専門基幹科目B群	高齢者・生活系理学療法	高齢者の身体的特徴と心理特性を理解し、理学療法との関わりについて学ぶ。同時に、各自の「高齢者観」を再考しながら、高齢者の尊厳を意識した生活モデルに基づく理学療法士としての支援のあり方について考えていく。	1. 高齢者の身体的特徴と心理特性について説明できる。 2. 自らの高齢者観を提示できる。 3. 生活モデルに立脚した理学療法士としての支援のあり方を提示できる。			◎	◎	◎	○	△			○	○	○	○
専門基礎科目B群	義肢装具学	臨床でよく用いられている義肢・装具から、最新の義肢・装具まで紹介し、その機能、留意点を説明する。給付体系を熟知し、急性期から回復期、地域リハまで義肢・装具を有効に利用するための知識を身につける。	1. 義肢・装具の種類とその特徴を説明できる。2. 義肢・装具のアライメント不良について説明できる。3. 補装具の給付体系を説明できる。				◎	○	○				△		○	
専門基礎科目B群	義肢装具学実習	義肢装具学の知識を基に、装具を実際に調整したり、シューホーンプレイスを製作したりすることで、臨床現場での必要最小限の調整修理ができるようになる。	1. 実際にシューホーンプレイスを製作することを通して、工具の使い方を身につけ、簡単な修理ができる。2. モジュラー型の義肢を調整することを通して、義肢の構成を図解できる。					○	◎					○		○
専門基幹科目B群	物理療法学	物理療法で用いられる温熱・電気・機械的な刺激が、生体内でどのような影響を及ぼすかを学ぶ。また各療法についての目的、効果や適応、禁忌を学習しながら、物理療法機器の構造や特性、使用手順、リスク管理などを理解する。	1. 物理的な刺激と生体内での反応について、生理学及び生化学的な観点より説明できる。 2. 各療法における定義、目的、効果や適応、禁忌を説明できる。	△	○	○	◎	△							○	

